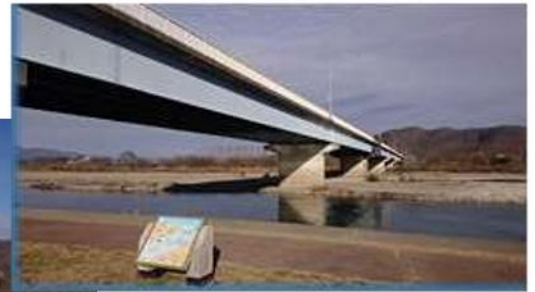


千曲川・橋梁の今昔 その6

平和橋



↑左岸、水辺の楽校親水公園から
←幅員 12m (車道 7m) の橋上

平和橋が架かるこの辺りの千曲川は、川幅が広く、悠然とした景観が広がっています。千曲橋と冠着橋の間に位置するこの橋は、千曲建設事務所管理の7橋梁のうち坂城大橋に次ぐ長さで、古くから左岸の武水別神社に参詣する人々も使った渡し船から船橋、木橋の歴史があります。その木橋も昭和の初期の架設以来、たび重なる洪水により流失の被害に遭ってきました。

戦後の動乱期に国の平和と繁栄の希望を込めて名付けられた平和橋。千曲川を見下してこの長大橋を渡るとき、国や地域を思い、補修や架け換えの苦難に立ち向かった先人に思いを馳せることができます。当所が管理する7橋梁を紹介するシリーズ、第6回は千曲市の平和橋です。

1 橋梁データ

路線名 (場所)		一般県道姨捨停車場線 (左岸 千曲市大字八幡、右岸 千曲市大字中)
現橋	完成年月	昭和60年(1985年)7月
	橋長・幅員	580.8m ・ 12.0m
	構造	3径間連続鋼板桁 3連 4径間連続鋼板桁 1連
旧橋	最初の橋の完成年	昭和初期(推定)
	本格的な木橋の完成年月	昭和26年(1951年)6月

2 木橋の時代



平和橋渡り初め
(戸倉町誌 第三巻歴史編下)

この地域の交通は、古くは「向八幡渡」と呼ばれ、人々は小舟で往来していました。左岸側には戦国の武将が戦勝祈願を懸けたといわれている武水別神社があり、神社ゆかりの渡しが行われていた往時が偲ばれます。

昭和の初めに木橋が架けられましたが、架設技術が未熟なため「三日橋」と呼ばれるほど流失を繰り返し、本格的な木橋になったのは昭和26年6月でした。



木橋の平和橋(昭和55年)看板には「自転車、オートバイはおりて通ってください」と表示。手すりがロープだけであり、川へ転落する危険があった。当然車の通行はできない。
(科野のいしぶみ五十周年記念誌 長野県建設業協会更埴支部)

架設の主体は、当時の五加村、八幡村、埴生町、戸倉町、更級村、杭瀬下村、桑原村の七町村で作る道路組合で、戦後の世相の中、サンフランシスコ講和条約(いわゆる平和条約)署名に因^{ちな}んで「平和橋」と名付けられました。地域の人々が国の平和と繁栄を希求し、世界に高い関心を寄せていたことが推察できます。



旧橋（木橋）の平和橋全景

この橋は、千曲川低水敷に架かる潜水木橋であり、主桁が鉄線で連結されていて洪水時に水位が上昇すると、橋の中央部が二つに割れて両岸に繫留される構造になっていました。橋面の敷板は水位上昇を予測して水防団の出動により人力で撤去していましたが、この作業が濁流上で大変危険を伴うことから、昭和40年頃から行われなくなりました。

洪水のため幾度か流失、架橋を繰り返してきた木橋も、永久橋完成目前の昭和60年7月、増水により流失し、詩情豊かな板橋風景は見られなくなりました。

3 永久橋建設へ

木橋の平和橋が架かるまで、千曲市の東西を連絡する唯一の永久橋は昭和8年（1933年）に架設された千曲橋のみ。千曲橋は交通量の増加が著しく、朝夕の通勤時間帯には慢性的な交通渋滞を起こしており、東西を結ぶ動脈としての機能を十分に果たしていませんでした。

平和橋は大きな期待を集めて昭和48年（1973年）から計画が進められ、12年の歳月をかけて昭和60年（1985年）に完成しました。



開通式を祝う神楽囃子（昭和60年）（科野のいしぶみ五十周年記念誌 長野県建設業協会更埴支部）

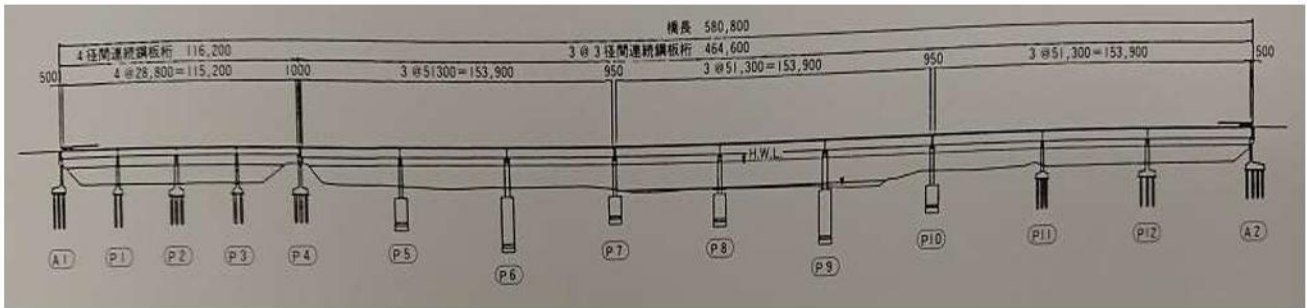
橋長は当所が管理する7橋のうち二番目で、坂城大橋に次ぐ580.8m。上部工は4基の橋脚の間（3径間）を一体の連続した鋼板桁が3連、4径間の連続鋼板桁が1連。つなぎ目をできるだけ作らない連続桁のため、騒音、振動が抑えられ、車の走行性にも配慮されています。



上部工（主桁）を架設中（昭和58年）



下部工 橋脚を施工中（昭和55年）



平和橋側面図。4径間（A1～P4）、3径間（P4～P7、P7～P10、P10～A2）が連続鋼板桁
※A：橋台（アバットメント） P：橋脚（ピア）

4 平和橋の今



JR 姨捨駅からの柵田と平和橋

県道姨捨停車場線は、千曲市打沢で国道18号から分かれ、平和橋を渡った後、一気に標高を上げて国道403号との重用区間を経て、名勝田毎の月を眼下に望み、JR姨捨駅に至ります。沿道地区には武水別神社をはじめ、大雲寺、長楽寺などの名所や、数多くの企業が立地する県営八幡工業団地があります。柵田では歩道も整備され、千曲市街地と平和橋を一望できます。

完成から30年以上が経過し、塗装の経年劣化による損傷が目立ってきたため、塗り替えにより安全性の向上を図っています。



塗装終了部分（青色）と自転車道



塗装作業の様子

千曲川左岸堤防、平和橋を潜って南北に伸びる上田千曲長野自転車道。千曲市、戸倉上山田温泉旅館組合、地域住民の方々と千曲建設事務所など県機関で作る「科野さらしなの里サイクリング推進委員会」ではサイクリングルートの設定やマップ作成、道標の設置を進めています。

平和橋を通るコースは、戸倉上山田温泉カラコロ足湯をスタートする「千曲川サイクリングコース」。スタートから約20分、5.7kmで平和橋に到着します。



平和橋と千曲川サイクリングコース

設定コースを外れて平和橋の歩道を走り、千曲川の景観を眺めた後は、折り返して武水別神社へのお詣りもお勧めです。オリジナルのサイクリングコースを描いてみませんか。

温泉サイクリング 千曲川サイクリングロードのマップは
千曲建設事務所ホームページからダウンロードできます。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/koho/ko-susyoukai.html>

○ マップは英語版も用意しています。

台湾語版も作成中です。



鉄平石に橋名が記された親柱（左岸）

■ 次回（最終回）は万葉橋です。

（出典を記した白黒写真の転載は禁止します）